

# 横須賀市中小企業景況レポート

第 49 号 (令和 7 年 1 月号)

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課  
〒238-8550 横須賀市小川町 11  
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：153社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査137社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和6年 7～9月の景況感（調査時点 令和6年 9月1日）  
今期・・・令和6年 10～12月の景況感（調査時点 令和6年 12月1日）  
次期・・・令和7年 1～3月の景況感（調査時点 // ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページにD I 値の説明あり）

## 景況及び4項目の調査結果（全業種）

\* D I 値調査結果は裏面に記載

\* 【 】は今期のD I 値を記載

**全業種の景況感は、前期と変わらず今期も【3P】となりました。**

今期の景況感は、卸・小売業【△8P】は8Pやや向上しました。一方、サービス業【0P】は、8Pやや低下しました。製造業【13P】、建設業【12P】、不動産業【0P】は、横這いの状況です。

項目別では、資金繰り【△4P】は、6Pやや向上しました。売上額【5P】、収益【△5P】、雇用人員【△33P】は横這いの状況です。

昨年同期（令和5年10月～12月）との景況感比較は、今期構成比【△1P】で、前期構成比【7P】と比べ、やや低下しました。

景況感は金利動向に対する不安や原材料費高騰、人手不足による受注機会損失の声が聞かれます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

向上 (15P以上)	やや向上 (6P～14P)	変わらない (△5P～5P)	やや低下 (△6P～△14P)	低下 (△15P以下)
				

## 業種別 調査結果と事業者の声

\*DI 値調査結果は裏面に記載

### (1) 製造業 景況感 【 13P <やや向上> 】 (前期比 4P)

前期と比べ、資金繰り【7P】は17P向上し、売上額【3P】は6Pやや向上しましたが、収益【△6P】は12P低下しました。雇用人員【△23P】は横這いの状況です。

次期は、売上額が低下の見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・自動車メーカーの減産が影響している。自動車メーカーの減産等があれば、下振れする可能性も否めない。
- ・業務量過多であることには変わりはなく、受注量の調整は継続している状況。

### (2) 建設業 景況感 【 12P <やや向上> 】 (前期比 △5P)

前期と比べ収益【6P】、資金繰り【0P】がそれぞれ14P、9Pやや向上しましたが、雇用人員【△47P】は、9Pやや低下しました。売上額【9P】は横這いの状況です。

次期は、雇用人員がやや向上しますが、資金繰りがやや低下する見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・仕事は増えているが、少ない従業員数だと回しきれない。収益などが上がり魅力を感じれば新しい人も入ってくると思うが、現状そうではない。
- ・各工期に合わせて人繰り、下請け調整により対応。受注に追われる状況であるが、自社における技能向上に努めている。
- ・昨年度採用した外国人技能実習生もスキルを高めており、多くの受注をこなせるようになってきていることから受注増に対応できている。

**(3) 卸・小売業 景況感 【  $\Delta 8 P$  <やや低下>  】 (前期比 8 P)**

前期と比べ、売上額【2 P】、資金繰り【 $\Delta 11 P$ 】は、それぞれ8 Pやや向上しましたが、雇用人員【 $\Delta 40 P$ 】は、10 Pやや低下しました。収益は、横這いの状況です。

次期は、雇用人員がやや向上しますが、売上額がやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・町内会での集会をはじめ飲食の機会も増えていることから、個人消費を中心に上昇傾向。物価高の影響から購入意欲も昨季と比較して、若干抑え気味になっているように感じる。
- ・ガス仕入価格は高止まりしているが販売価格に転嫁できており、堅調に推移。原材料価格より為替による影響が大きく、現状の1ドル150円程度であれば問題ないが、円安が進むにつれて更なる価格転嫁が必要になる可能性がある。

**(4) 不動産業 景況感 【 0 P <変わらない>  】 (前期比 0 P)**

前期と比べ、収益【18 P】が11 Pやや向上しましたが、雇用人員【 $\Delta 27 P$ 】、資金繰り【0 P】は、それぞれ7 Pやや低下しました。売上は、横這いの状況です。

次期は、売上額、収益が向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・基本的に業者への卸が多いため、案件については採算がとれるように慎重に行っている。今後も採算及び回転を重視し、仕入れを行っていく。
- ・材料費の高騰による高めの価格設定及びコロナ禍を起因とする景気先行き不透明感や今後の金利動向に対する不安により顧客側も様子をうかがっている状況が続いている。
- ・市内の販売価格は下落しているが、物件数が少ないことから現地販売会を開催する等顧客確保に努めている。

**(5) サービス業 景況感 【 0 P <変わらない>  】 (前期比  $\Delta 8 P$ )**

前期と比べ、収益【 $\Delta 12 P$ 】は15 P低下し、資金繰り【 $\Delta 10 P$ 】は7 Pやや低下しました。売上額【6 P】、雇用人員【 $\Delta 22 P$ 】は横這いの状況です。

次期は、売上額が低下し、収益がやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・物価上昇と比較して収入（給与等）の上昇がほとんど無いため、景況感は悪く感じる。
- ・原材料価格と人件費の高騰で収支が圧迫されている。収支改善の施策として、10%程度値上げ予定。営業日数を1日減少させることで、人件費を抑制し、経費改善を図る。

DI値 調査結果

前・・・前期 令和6年7月～9月の景況感（調査時点 令和6年6月1日）  
 今・・・今期 令和6年10月～12月の景況感（調査時点 令和6年12月1日）  
 次・・・次期 令和7年1月～3月の景況感（調査時点 令和6年12月1日）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	161	32	34	46	14	35
今期	153	31	32	47	11	32
次期	153	31	32	47	11	32

(単位：ポイント)

業種 項目	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況																		
景況全般について総合的な概況をお聞きしました。																		
良 い(A)	22	24	21	28	26	19	35	25	25	17	26	23	7	9	27	17	22	13
変わらず	59	55	54	53	61	49	47	62	56	50	40	47	86	82	64	74	56	62
悪 い(B)	19	21	25	19	13	32	18	13	19	33	34	30	7	9	9	9	22	25
DI値(A)－(B)	3	3	△4	9	13	△13	17	12	6	△16	△8	△7	0	0	18	8	0	△12
今－前 / 次－今	0		△7	4		△26	△5		△6	8		1	0		18	△8		△12
売上額																		
製造業については、生産品を出荷した額をお聞きしました。																		
好 転(A)	24	28	22	25	29	26	29	25	25	22	32	21	21	18	36	20	28	13
変わらず	56	49	53	47	45	35	50	59	56	50	38	51	72	73	55	71	50	65
悪 化(B)	20	23	25	28	26	39	21	16	19	28	30	28	7	9	9	9	22	22
DI値(A)－(B)	4	5	△3	△3	3	△13	8	9	6	△6	2	△7	14	9	27	11	6	△9
今－前 / 次－今	1		△8	6		△16	1		△3	8		△9	△5		18	△5		△15
収益																		
売上から経費を引いた収益状況をお聞きしました。																		
増 加(A)	16	20	18	22	23	23	18	22	25	11	19	13	14	18	36	17	16	6
変わらず	63	55	57	62	48	45	56	62	56	60	49	57	79	82	64	69	56	66
減 少(B)	21	25	25	16	29	32	26	16	19	29	32	30	7	0	0	14	28	28
DI値(A)－(B)	△5	△5	△7	6	△6	△9	△8	6	6	△18	△13	△17	7	18	36	3	△12	△22
今－前 / 次－今	0		△2	△12		△3	14		0	5		△4	11		18	△15		△10
雇用人員																		
需要に対応できる労働状況をお聞きしました。																		
多 い(A)	3	2	3	9	3	6	3	3	3	0	0	0	0	0	0	3	3	6
適 正	65	63	64	57	71	68	56	47	53	70	60	68	80	73	73	68	72	63
少 ない(B)	32	35	33	34	26	26	41	50	44	30	40	32	20	27	27	29	25	31
DI値(A)－(B)	△29	△33	△30	△25	△23	△20	△38	△47	△41	△30	△40	△32	△20	△27	△27	△26	△22	△25
今－前 / 次－今	△4		3	2		3	△9		6	△10		8	△7		0	4		△3
資金繰り																		
資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きしました。																		
余裕がある(A)	9	14	12	9	23	19	12	16	9	7	17	15	7	0	9	11	3	3
支障がない	72	68	72	72	61	68	67	68	69	67	55	64	93	100	91	75	84	84
苦しい(B)	19	18	16	19	16	13	21	16	22	26	28	21	0	0	0	14	13	13
DI値(A)－(B)	△10	△4	△4	△10	7	6	△9	0	△13	△19	△11	△6	7	0	9	△3	△10	△10
今－前 / 次－今	6		0	17		△1	9		△13	8		5	△7		9	△7		0

〈参考〉昨年同期と現在の景況感比較(回答147社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	38社	26%	26%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	69社	47%	55%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	40社	27%	19%
DI値(A)－(B)		△1P	7P

